

2017 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果

2017 年 11 月 27 日

一般社団法人 日本経済団体連合会

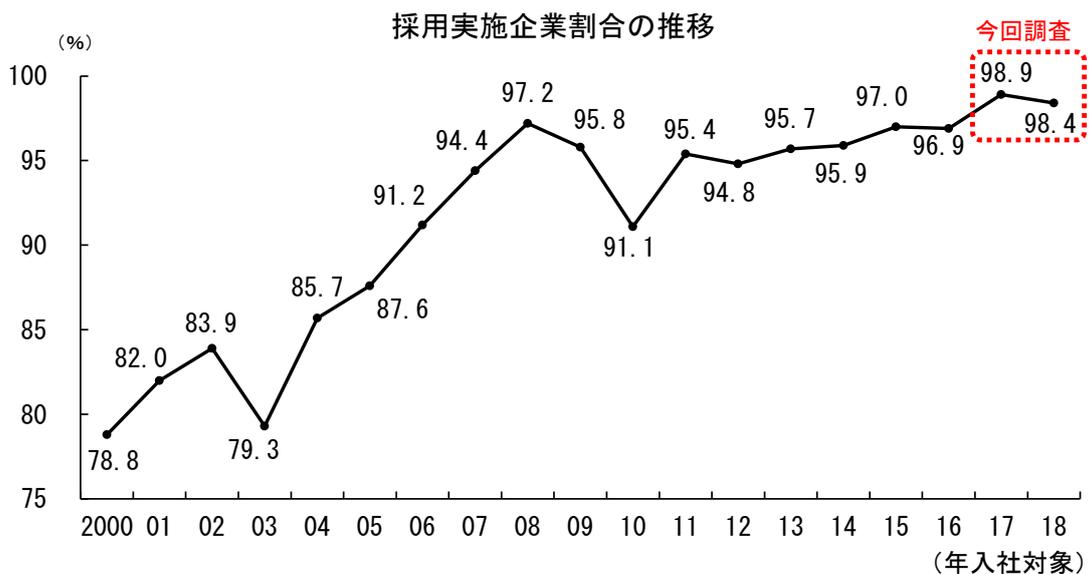
【調査実施要領】

- (1) 調査目的：企業の大卒等新卒者の採用選考活動を総括することを目的に、1997 年度より実施
- (2) 調査対象：経団連企業会員 1,339 社
- (3) 実施時期：2017 年 7 月 28 日～8 月 31 日
- (4) 回答社数：553 社（回答率 41.3%）
 - * 製造業 42.1%、非製造業 57.3%、不明 0.5%
 - * 従業員数 1,000 人以上 71.8%、500 人以上 1,000 人未満 14.1%
500 人未満 12.7%、不明 1.4%

1. 2017 年 4 月および 2018 年 4 月入社対象の採用選考活動について

(1) 採用選考活動の実施割合

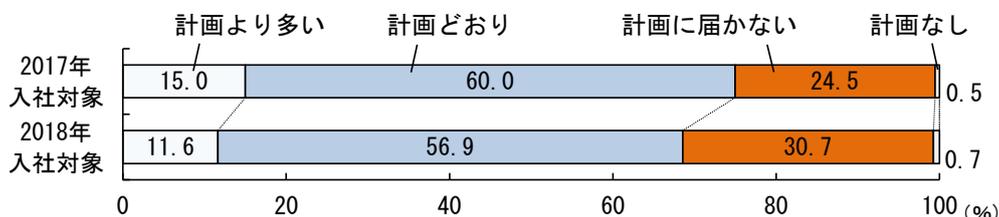
2017 年 4 月入社対象の採用選考活動を実施した企業の割合は 98.9%となり、調査開始以来はじめて 98% 台を越えた。2018 年 4 月入社対象（実施予定を含む）も 98.4%と高水準が続いている。



(2) 採用計画の達成状況

2018年4月入社対象について、「計画に届かない」(30.7%)が前年に比べて6.2ポイント増加しており、採用難の影響が一定程度見られる。

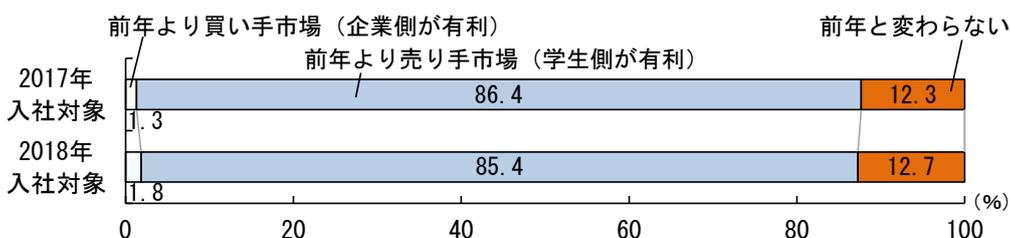
採用計画数の達成状況



(3) 新卒採用市場に関する評価

「前年より売り手市場(学生側が有利)」が2年連続で8割以上となった。

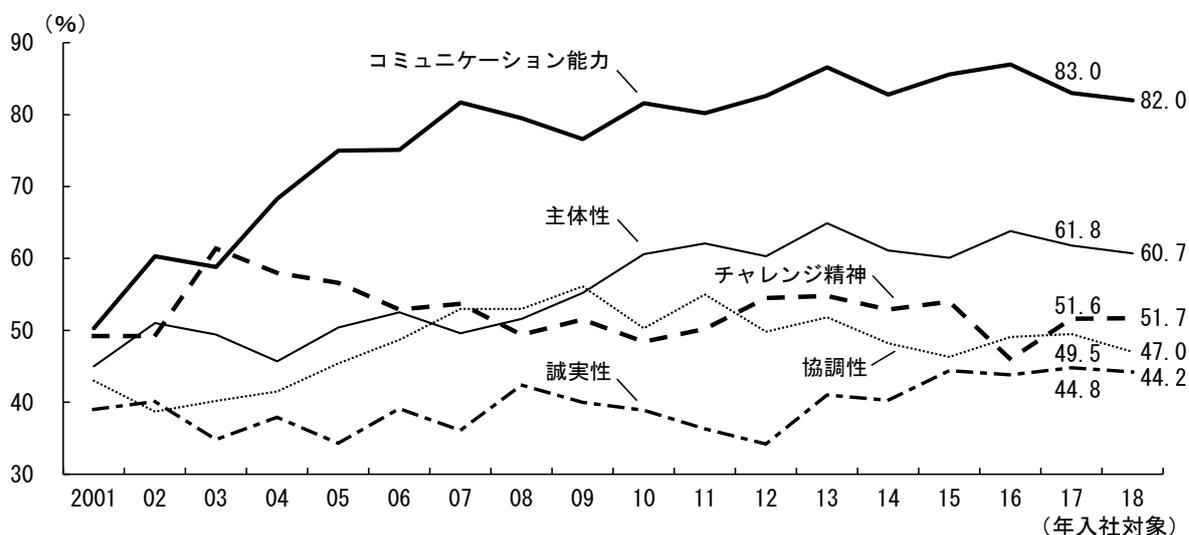
新卒採用市場に関する評価



(4) 選考にあたって特に重視した点

「コミュニケーション能力」が第1位(15年連続)、「主体性」(9年連続)が第2位となった。第3位の「チャレンジ精神」は、2016年入社対象について第4位に順位を下げたものの、2017年入社対象以降、再び第3位となった。

「選考時に重視する要素」の上位5項目の推移



注：20項目から5つを選択。20項目の詳細は6頁を参照。

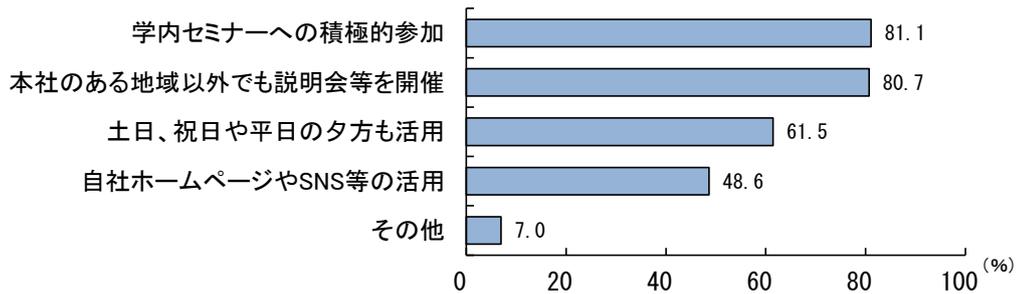
2. 2018年4月入社対象の採用選考活動について

(1) 学事日程への配慮

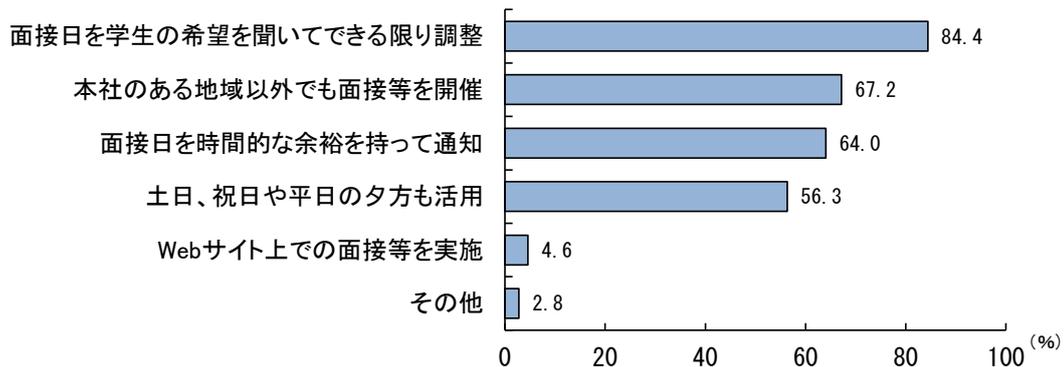
広報活動の際に学事日程を尊重して実施したものは、「自社ホームページやSNS等の活用」(48.6%)が前年と比べて19.5ポイントと大きく増えた。

選考活動に際しては、「面接日を学生の希望を聞いてできる限り調整」(84.4%)が最も多かった。

学事日程への配慮【広報活動】 (複数回答)



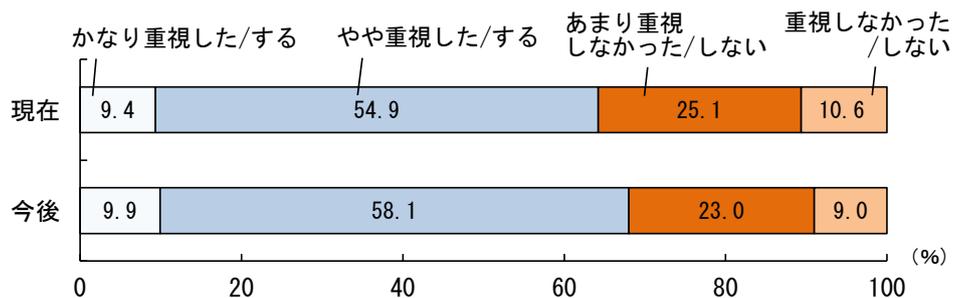
学事日程への配慮【選考活動】 (複数回答)



(2) 面接時における履修履歴の取扱い

面接時に履修履歴(成績証明書等)を「かなり重視した」「やや重視した」との回答合計は64.3%となっており、今後もこうした傾向は強まる。

面接時における履修履歴の取扱い

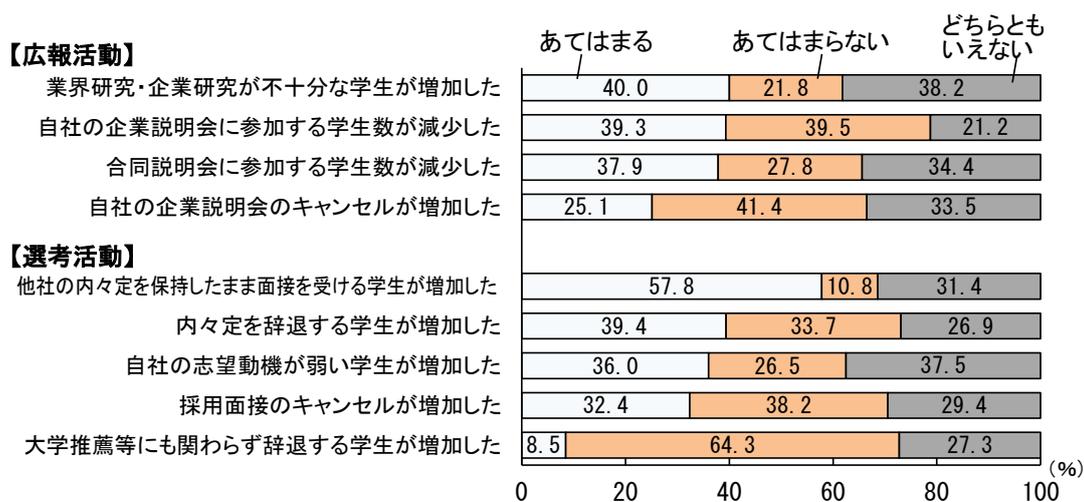


(3) 前年と比べた広報活動、選考活動の状況の変化

広報活動において、約4割の企業が「業界研究・企業研究が不十分な学生が増加した」、「自社の企業説明会に参加する学生数が減少した」、「合同企業説明会に参加する学生数が減少した」と回答した。

選考活動では、約6割の企業が「他社の内々定を保持したまま面接を受ける学生が増加した」と回答した。また、「内々定を辞退する学生が増加した」との回答も約4割に達した。

前年と比較した採用選考活動の状況の変化 (複数回答)



(4) 中長期的な「指針」のあり方

「指針」の中長期的なあり方については、「指針自体は残すが、広報活動や選考活動の開始時期の規定は削除すべき」(42.1%)との回答が最も多かった。

中長期的な指針のあり方

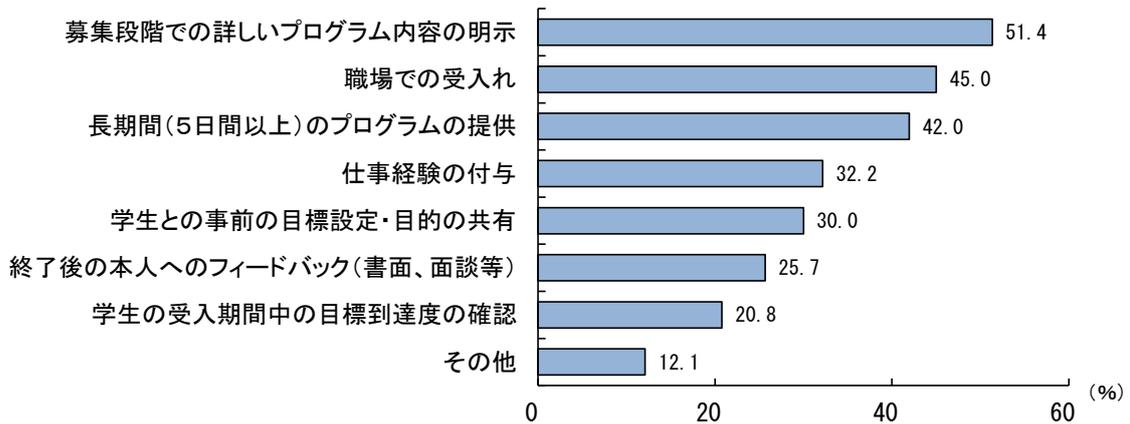
あり方	(%)
指針自体は残すが、広報活動や選考活動の開始時期の規定は削除すべき	42.1
選考開始時期等を含めた現行の指針の内容を維持していくべき	26.9
指針を廃止し、自由な採用活動を認めるべき	9.0
指針を廃止し、政府がルールを定めるべき	7.9
その他	14.0
計	100.0

3. インターンシップについて

(1) 教育的効果を高めるために実施している取組み

プログラム実施にあたって重要となる「終了後の本人へのフィードバック」を行っているとの回答は25.7%にとどまった。

インターンシップの教育的効果を高める取組み (複数回答)



(2) 学生情報の取扱い

インターンシップで得た学生情報については、「当面は現行の取扱いを維持するものの、いずれは採用選考活動で使えるようにすべき」(47.5%)と「直ちに採用選考活動で使えるようにすべき」(30.7%)が多数を占めた。

インターンシップで得た学生情報と採用選考活動の関係

	(%)
当面は現行の取扱いを維持するものの、 いずれは採用選考活動で使えるようにすべき	47.5
直ちに採用選考活動で使えるようにすべき	30.7
今後も現行の取扱いを維持すべき	18.1
その他	3.7
計	100.0

以上

(参考) 選考にあたって特に重視した点 (5つ選択)

